

## 1) わが国の慢性透析療法の要約

日本透析医学会は、1968年から毎年毎に、全国の透析療法施設を対象に統計調査を行っている。この調査は二種類の調査から成り立っていて、一つは透析ベッド数、スタッフ数、患者数などの施設背景に関する調査（施設調査：シートⅠを使用）である。もう一つは個々の患者に関する調査（患者調査：シートⅡ、Ⅲ、Ⅳを使用）である。

2011年末の統計調査は全国の4,255施設を対象に実施され、4,205施設から回答が寄せられた。2010年末から39施設の増加である。施設調査であるシートⅠの回収率は98.8%、患者調査であるシートⅡ、Ⅲ、Ⅳも含めた回収率は96.2%であった。それぞれ2010年の98.2%、95.6%より改善した。調査に協力賜った各施設のご好意ならびに地域協力委員の諸兄に対し、紙面をお借りして深甚なる感謝の意を呈したい。

これらの調査結果を集計した2011年末のわが国の慢性透析療法の現況を速報版として報告する。なお、この図説（速報）に掲載された患者数などは速報値である。年末までに追加・修正されたデータを基に作成された確定値はCD-ROM版として配布される。透析患者数の推移など昨年との比較で図説に記される値は、2010年のCD-ROM版（確定値）との比較であり、2011年と2010年の比較についての確定比較は2011年版CD-ROM版とで行っていただきたい。図説の記載はあくまで速報値としての比較である。

### (1) わが国の慢性透析療法の要約（図表1）

施設数		4,205施設	(39施設増)	0.9%増
設備	ベッドサイドコンソール	121,835台	(3,213台増)	2.7%増
能力	同時透析	119,902人	(3,083人増)	2.6%増
	最大収容能力	405,504人	(9,780人増)	2.5%増

慢性透析患者	304,592人	(6,340人増)
--------	----------	-----------

人口100万対比	2,383.4人	(54.3人増)
----------	----------	----------

昼間	253,722人	(83.3%)
夜間	40,917人	(13.4%)
在宅血液	327人	(0.1%)
腹膜透析	9,626人	(3.2%)

HD、HDF等とPDを併用している患者数	1,902人
腹膜カテーテルを残している洗浄患者など	378人
腹膜透析新規導入、年内脱落患者数	176人

導入患者数	38,893人	(1,381人増)	3.7%増
死亡患者数	30,831人	(1,949人増)	6.7%増

上記は施設調査による集計

	男性	女性	不詳	計
5年未満透析患者数	92,641	48,134	3	140,778 (47.8%)
5年以上10年未満透析患者数	46,739	27,970	0	74,709 (25.3%)
10年以上15年未満透析患者数	22,112	15,336	0	37,448 (12.7%)
15年以上20年未満透析患者数	11,067	8,414	0	19,481 (6.6%)
20年以上25年未満透析患者数	5,667	4,934	0	10,601 (3.6%)
25年以上透析患者数	6,393	5,409	0	11,802 (4.0%)

※透析歴別患者数は調査シート2～4より算出

患者調査による集計

最長透析歴	43年7ヵ月
-------	--------

患者調査による集計

### 解説

今回の調査で回答された施設は4,205施設となり、前年度と比べ39施設（0.9%）増加した。ベッドサイドコンソールは121,835台であり3,213台の増加、同時透析可能人数は119,902人、最大収容能力は405,504人であり、その増加率は約2.5%であった。

昼間透析の割合は83.3%で前年度の割合より0.8%増加し、夜間透析は13.4%で0.7%減少した。夜間透析の減少は近年一定した傾向である。在宅血液透析患者は327人であり、50人増加した。一方、腹膜透析患者数は9,626人で、147人減少した。全透析患者数に占める割合は3.2%と0.1%減少した。2009年末から腹膜透析患者と血液透析の併用調査も開始されたが、併用患者は1,902人で81人減少し、腹膜カテーテルを残しながら洗浄のみ実施している患者は378人で28人減少した。2011年に新規導入したが年内に腹膜透析から脱落した患者は176人であり、39人増加した。

20年以上の透析患者数は22,403人で前年度と比べ835人増加し、全透析患者の中の割合で7.6%と年々漸増している。最長透析歴は43年7ヶ月であった。